

新興国通貨とファイナンス

今年の世界経済は3%の縮小の見込みだ。3、3%のプラス成長を見込んだ1月時点の経済見通しをIMFは6.3%も大幅に下方修正した。もちろんコロナウイルスの影響で、これでも穏当な見通しということだ。実際のところは悪化の程度がつかみがたいのが実情だ。内訳をみると新興国の落ち込みが先進国に比べて穏やかだ。これは中国とインドの落ち込みが比較的小さいためだが、果たしてどうだろう。

新興国の中には援助なしで立ち行かなくなりそうな国も少なくない。共通しているのは資本流出が激しいことだ。

カルロス・ゴーンの逃亡を助けたレバノンが2月に300億ドルの債券をデフォルトした。現在は政府債務のリストラを計画しているが、政府は70%の債務の削減を要求している。投資家の債券保有者が飲むとも思えない。

経済や財政の悪化が進む中でコロナウイルスの影響が加わることになった。為替レートは1ドル1500レバノンポンド水準だが、ドルにペッグした固定相場を採用している、実勢のレバノンポンドははるかに安い。いずれにせよ固定相場を維持するのは、乏しい外貨準備では難しく、変動相場か管理変動相場に移行する可能性が高い。

メキシコは先月70億ドル流出した。ほとんどが債券の売りだ。近々メキシコ国営石油の債券が格下げされジャンク債になるとの見通しがあり、一層の資本流出が見込まれる。メキシコペソは先月1ドル25ペソを超え最安値を付けたが、直近では23.43水準で推移している。通貨安の圧力はなかなか消えないだろう。

南アフリカは先月に続き政策金利を1%下げた。景気浮揚のためだが現在の状況ではこれが資本流出を誘い、ランドが売られた。直近では18.31水準で推移している。最低水準に近いレベルだ。年初から見ると20%ほど下落している。南アフリカの債券は先月ムーディーズが格下げしてジャンク債になった。つまり資金調達は一層コストがかかり難しくなった。

資金調達が最重要課題であると財務大臣が公言するのも当然だ。国際機関頼みになるだろうが、通貨の下落圧力も止まりそうにない。